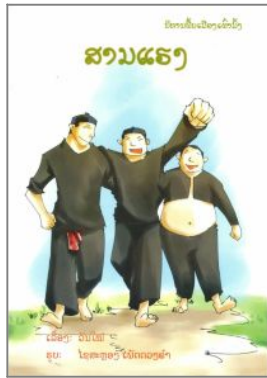


子どもは未来をつかみたい



五体不満足
完全版
乙武洋匡



ເດັກນ້ອຍລາວ Deknony Lao

ຈຸດສາຍ ເພື່ອເດັກສອນອາການພາຍນອກ ອາຍຸສິດວິໄນ
18 | 19 ສະໄໝທີ 2 ຕະຫລົກວິໄນ ສີເຫລາ ເຊິ່ງ 2008

- ຕ້ອງຖາມມາ ສາຂາອາຍາດອນໄລ
- ກູ່ນ້ອມໂອສະ
- ມີສ່ວນສິດວິໄນ
- ຜະໜາບາລິດ
- ໂອສະຫຼອງເຊິ່ງ
- ມີໄດ້ແນວແນວນີ້
- ໄປໄຫລາ
- ມີໄດ້ແນວແນວນີ້

ຈຸດສາຍ ສະບັບສົມບູນ ຈຸດສາຍ ສະບັບສົມບູນ (A6)
ສຸບ ໂອສະຫຼອງ ໄດ້ເດດຮຸ່ນຳ ສຸບ ໂອສະຫຼອງ ໄດ້ເດດຮຸ່ນຳ (A6)
ຊຸບ ໂອສະຫຼອງ ໄດ້ເດດຮຸ່ນຳ ຊຸບ ໂອສະຫຼອງ ໄດ້ເດດຮຸ່ນຳ (A6)

ເດັກນ້ອຍລາວ Deknony Lao

ຈຸດສາຍ ເພື່ອເດັກສອນອາການພາຍນອກ ອາຍຸສິດວິໄນ
18 | 19 ສະໄໝທີ 2 ຕະຫລົກວິໄນ ສີເຫລາ ເຊິ່ງ 2008

ບຸນເຮືອນສາຍບຸນສາຍສິດວິໄນ ສິດວິໄນ IV
65 ປີ ສິດວິໄນ ມະໂນສິດວິໄນ ມາສາຍບາລິດ
ສຸບ ໂອສະຫຼອງ ໄດ້ເດດຮຸ່ນຳ ສຸບ ໂອສະຫຼອງ ໄດ້ເດດຮຸ່ນຳ

ເດັກນ້ອຍລາວ Deknony Lao

ຈຸດສາຍ ເພື່ອເດັກສອນອາການພາຍນອກ ອາຍຸສິດວິໄນ
18 | 19 ສະໄໝທີ 2 ຕະຫລົກວິໄນ ສີເຫລາ ເຊິ່ງ 2008

- ກາຕຸນສິນໂຊ ສະບັບສົມບູນ
- ເລື່ອໃຫ້ເຮືອນພະລາຊາ
- ສາດຖາອ່ານເກັ່ງ
- ມັກຮູບ ສາງຊິນ SEA WRITE 2008
- ຜະໜາ ພາລິດ
- ກອນ ຈາກໄຈຊຸເກົາ ກຸງວຽງ



2008年度出版図書

ເດັກນ້ອຍລາວ Deknony Lao

ຈຸດສາຍ ເພື່ອເດັກສອນອາການພາຍນອກ ອາຍຸສິດວິໄນ
18 | 19 ສະໄໝທີ 2 ຕະຫລົກວິໄນ ສີເຫລາ ເຊິ່ງ 2008

- ໂອສະຫຼອງ ສິດວິໄນ ໂອສະຫຼອງ
- ມີສ່ວນສິດວິໄນ
- ສິດວິໄນສອນອາການພາຍນອກ
- ສະໜັບສະໜູນ
- ມາສາຍບາລິດ
- ການສ້າງສະມາທິເພື່ອການຮຽນສິດວິໄນ
- ສິດວິໄນສອນອາການພາຍນອກ
- ມີໄດ້ ຮອບໄຈເດີ

ເດັກນ້ອຍລາວ Deknony Lao

ຈຸດສາຍ ເພື່ອເດັກສອນອາການພາຍນອກ ອາຍຸສິດວິໄນ
18 | 19 ສະໄໝທີ 2 ຕະຫລົກວິໄນ ສີເຫລາ ເຊິ່ງ 2008

- ສິງສິນໂຊ ສະບັບສົມບູນ ເຊິ່ງຮັກການອ່ານ
- ຂໍອ່ານປ່ືນຟ້າອ້ອງ... ອັດສະລິຍະ 6 ດ້ານ
- ລ້ຽງລູກແນວບວກ ຈາກພູເອົາຄວາຍ

2008年度 年次報告書 2008年7月1日-2009年6月30日 2009年度 年次計画書

目次

2008年度 事業報告	
この1年	1
出版プロジェクト	2
読書推進運動	3
子ども文化センター	4
国内事業	5
組織運営	6
2008年度 会計報告・2009年度収支予算	7
2009年度 事業計画	9

この1年

第4次中期計画の2年目として、今年度を①中央よりも現場をより丁寧に ②満遍なくでなく地域ポイントを明確に ③子どもの意見を反映し、担い手として育てる、という基本方針から「現場力」の強化を目指すとともに、これまで展開してきたプロジェクトの評価をすすめて、今後の展開を検討する期間と考えました。

そのことから、読書推進活動のかなりの部分を占める、3年間にわたり継続してきたJICA草の根技術協力事業が12月で終了するに際し、事業の継続をおこなわず、時間をかけて現場での成果を再度検証した上で、次の方向性を策定することとしました。

その結果、経済的な困難を迎えることにはありませんでしたが、多くの方々からのご支援により、なんとか乗り越えることができました。

しかし、豊富な資金力を背景に、活発に読書推進活動を展開するNGOや、本の出版を手掛ける個人、組織が増加するなど、ラオスでの読書推進活動が多様化している一方、まだまだラオス全国では、本に接することが難しい子どもたちが多数いる現実において、私達の活動をどのように展望すべきか？、ラオス社会の激しい変化により、貧富が拡大している状況に対し、私達の活動は対応しているのか？など、簡単に対応できない問題がより明らかになり、試練の年であったといえます。

2008年度活動状況



その一方、この数年で改善が図られてきた事務作業の効率化、迅速な対応など組織の基本的な力の向上、申請書のほぼ100%が採択されるなど資金調達とその報告の精度の向上、会員への精密な対応、認定NPO申請を睨んだこれまでの会計方式の見直しなど、徐々に組織力の改善がすすみ、さらに物販への取り組みが試行され、資金調達の幅を拡げることができたなど、全体的には成果も見え始めた年でもありました。

また東京事務所では、学生との連携により開発教育を積極的に展開できたほか、ラオス事務所では、スタッフからの提案により、現場をより丁寧に、より現場に近くと、小中学校を訪問して直接読書推進活動をおこなう「出前活動」を開始し、新しい活動の流れを作ることができました。

さらに、朝日国際児童図書普及賞の授賞式に参加するため、9月にコペンハーゲンで開催された国際児童図書評議会 (IBBY) 世界大会に参加することで、世界で読書推進活動を推進している方々とのネットワークが形成されるなど、新しい動きが始まりました。

今年度末までに、ラオス語図書 157種類 71.3万冊 (図書132/紙芝居12/教科書4/ニュースレター9) をラオスで出版し、ラオスの小中学校約9,996校のうち、2,714校に図書を配付し、189校で学校図書室 (ハックアーン) を開設しました。また、全国11ヶ所の子ども文化センター及び関連施設の運営を支援しています。

この一年間、活動のためにご寄付やご支援をくださいました個人、民間企業、助成団体、政府関係のみなさまには、心より感謝いたします。

事務局長 野口朝夫



コペンハーゲンでの IBBY朝日国際児童図書普及賞授賞式で受賞スピーチを行うチャンタソン共同代表

I 出版プロジェクト

<計画>

- ◆作品の質に重点をおき、多様な図書を出版する。
- ◆作家、編集者の育成をおこない、人材発掘、育成のためのコンクールを実施する。
- ◆多様な、少数民族向けの出版をおこなう。
- ◆図書の販売数を増やし本の流通システムを拡大する。

<実績>

I. 出版

図書2タイトル、紙芝居2タイトル、読書推進ニュースレター5号、計26,000部を出版しました。現地での事業実施の遅れもあり、計画より少ない出版となりました。出版できなかった図書8タイトル、紙芝居2タイトルは、次年度に出版されます。担当者が仕事をこなさきれないことが遅れの原因であり、スタッフの増強が必要となっています。

II. 出版作品 (作品名/著書/出版部数/主な支援者)

■ 翻訳本

『五体不満足 完全版』

文) 乙武洋匡 訳) チャンタソン

3,500部 大同生命国際文化基金・自己資金

*第6期と第7期にかけて出版

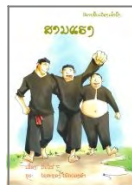


■ 図書

『3人の力』

文) ワンマイ 絵) サイサロン

8,000部 JICA・自己資金



■ 紙芝居

『これはジャックのたてたいえ』

原文) マザーグースより 絵) やべみつりの
ラオス語訳) ドゥアンドゥアン 2,000部
学習院女子大学



『これはジャックのたてたいえ』 ミニサイズ版

原文: マザーグースより 絵) やべみつりの

ラオス語訳) ドゥアンドゥアン 5,000部

沖電気工業OKI愛の100円募金

*第7期と第8期にかけて出版

■ 読書推進ニュースレター『Deknoy Lao』

第5号～9号 計9,000部

JICA・自己資金 (写真は第9号)



■ 救急法ハンドブック

学校保健衛生の知識と救急処置に関する技術を教育現場に普及するため、学校向け「救急法ハンドブック」を印刷しました。配付時に教員研修を実施するプログラムを実施しました。

(ご支援: 国際ボランティア貯金)

JICA=草の根技術協力事業

III. コンクール

15～30歳を対象に、幸せ、絆、環境、文化などをテーマにした小説の募集を開始しました。しかし文章量がA4用紙40頁以上と多いためか、応募が少ない状況です。

IV. 本の流通システムの形成

■ 図書販売コーナーと本の流通

事務所内に図書販売コーナーを独立させ、道路先にも本を展示したことにより、事務所にて購入する人が増えました。在庫が多種・多量になる一方で、図書販売コーナー専従スタッフがいなかったため、管理システムを見直す必要があります。

■ 本の流通

イベントでの販売や委託販売は順調に定着しつつあり、ヴィエンチャン市内の書店での委託販売は9ヶ所になりました。委託販売や事務所内の販売コーナーでの売上は昨年より増加しましたが、新しい図書の出版が少なく、援助団体による購入が減った為、全体額は約9,250ドルと減少しました。

II 読書推進活動

<計画>

- ◆図書を35校に新規配付、90校に補充、学校図書室を10校に開設する。
- ◆当会出版の図書セットを100校程度に提供する。
- ◆読書推進センターの設立等、図書流通システム拡充により学校に図書の自己調達を促す。
- ◆図書のある学校を巡回・指導する人材を雇用・育成する。
- ◆ラオス語教授法指導のための事業を開始する。

<実績>

本を読む環境の整備

図書を維持・活用し、読書推進運動に関係者が主体的に担い、地域住民が支え、関係者全員で自立的に発展させていく仕組みを構築するための取り組みを行いました。読書推進活動に関心を持つ若い人材、現場の先生などが少しずつ増えている感はありますが、目に見える成果が出る状況ではありません。

■草の根技術協力事業

今年度は下記活動を実施しました。

- ・ 1 作品5,000部の図書を出版
- ・ ヴィエンチャン県の90校に図書15,210冊を配付
- ・ 図書配付時に、配付対象校の教員に対しフォローアップセミナーを実施。各校から1名の教員及び各地域を管轄する教育指導官も参加し、合計99名がセミナーを受講。
- ・ ヴィエンチャン県教育局管轄の読書推進センターを開設し、91タイトル、1,294冊の図書を設置。またチャムパサク、ボーケオ、セコン県でも図書の交換活動を試行することとし、1ヶ所あたり54タイトル、894冊の図書を配布。
- ・ 『読書推進ニューズレター』を合計5回9,000部発行。第6号より2,000部に増やして印刷。
- ・ 3年間の事業の終了時評価を実施。対象4県の関係者、国立図書館、教育省普通教育局、理事、スタッフによる評価会議を開催。会議では、配付対象地域の50%以上の学校で図書室を自主的に運営できており、事業の目標は達成されたと評価されました。地域住民の利用が増えるなど広がりを見せる一方で、読書推進センターの活動、図書の利用時間、子どもの読解力の問題、図書担当教員の異動や多忙による活動の低下などが課題として挙げられました。

(ご支援：JICA草の根技術協力事業)

■図書室（ハックアーン整備）

小中高校の空き教室などを利用して学校図書室を整備する活動です。図書室に必要な図書と備品を整備し、開設時には読書推進セミナーを実施します。今年度は14ヶ所・7県にて開設し、累計189校になりました。

ルアンナムター県 小学校1校 中学高校1校
サイヤブリ県 小学校1校

ゲンタオ子ども文化センター図書室（改装）

ヴィエンチャン都 小学校2校

サワンナケート県 小学校2校

チャムパサク県 小学校2校

ルアンパバン県 小学校1校 中学高校1校

ヴィエンチャン県 小学校2校

計14ヶ所（小学校11校、中学高校2校、他1ヶ所）

3年以内に開設した図書室40校への図書補充も計画通りに実施しました。また、既設の図書室の活動状況評価のため、ヴィエンチャン都内の図書室のフォローアップを開始しました。

(ご支援：三井住友銀行ボランティア基金、早川要清・和田慎二、Lao-Japan Airport Terminal Service Co., Ltd. (L-JATS)、おはなしきやらばんセンター、ベルマーク教育助成財団・友愛援助運動参加校のみ

なさん、Dragon Massage、早乙女知弘・佐藤詩織・神戸陽、福岡那の香ライオンズクラブ、Fumiko Maeda & Masaya Maeda、Ford Motor Company、在ラオスオーストラリア大使館：図書室開設順)

■プロジェクトの効果と効率を高める活動

積極的な読書推進活動をしている学校の表彰を促進する活動や、支援地域を絞り込む準備を行う予定でしたが、実施できませんでした。

■現場への働きかけ～学校出前活動

昨年、現地事務所の発案で開始された「出前活動」を、今年はプログラム化しました。これは図書セットを配付し、併せてラオス事務所スタッフのチームが学校まで赴き、読書推進活動を実施するものです。アッタプー県5校、セコン県5校、ヴィエンチャン都25校で実施しました。

活動に際して、自動車の老朽化がひどく出張に支障を来していましたが、ご支援により新車を購入できたことにより、円滑に進むようになりました。

(ご支援：地球市民財団、ACA-アクア「自動車購入費」)



さらに学校からの要請により、当会出版の図書セット7,884冊をを76ヶ所に無償配付しました。図書のある学校を巡回・指導する人材の雇用は、次年度に開始予定ですが、上記活動の中で人材の育成は少しずつ進んでいます。

■ラオス語教授法プロジェクト

教員養成校におけるラオス語（国語）教育の教授法を確立し、全国の教員養成校でトレーナーを育成する事業を開始しました。

11月にラオス語教授法改善検討会議を実施。教員養成校8校の教員24名が参加し、課題と改善案を抽出、3月にはラオス語教授法マニュアル作成のためのワークショップを実施し、各校での実践内容の報告や、教え方の改善案を協議しました。

(ご支援：日本国際協力財団)

III 子ども文化センター(CCC)・その他の活動

<計画>

- ◆10館の運営支援を継続、小規模CCCの支援を1ヶ所増やす。
- ◆大規模センターの person 費支援を段階的に減らす。
- ◆「活動ハンドブック」を使ったセミナーを実施する。

<実績>

1. 子ども文化センターの広がり と 課題

学校教育では行なわれていない自己表現を学べる施設として、子ども文化センター(CCC)を開設支援してから15年余り、現在ではラオス政府管轄のCCCや子ども教育開発センター(CEC)の活動が全国に広がっています。当会は、大規模CCCには、報告書や予算書に他団体からの支援も含めた活動の全体像を明記することを支援の条件とする、という方針を適用しつつあります。運営の「子ども参加」は行なわれていますが、ラオス事務所では十分に把握できませんでした。

一方、センターの運営責任者(公務員)の交代などにより活動意欲が低下したり、大規模CCCでは、運営資金を継続的に減じてきたことで活動の質が低下する傾向も見られ、巡回指導が重要となっています。

■運営支援

今年度は以下11ヶ所(継続10ヶ所、新規小規模1ヶ所)の運営支援をおこないました。

- ・大規模CCC
ボリカムサイ県、サイヤブリ県、ルアンパンバン県
- ・小規模CCC
ヴィエンチャン都シーサタナーク郡、サイヤブリ県
ゲンタオ市、ボーテン市、パクライ市
- ・CCCと同様の活動を行っている施設
ボリカムサイ県ターパバット郡、ヴィエンチャン都子ども教育開発センター(CEC)、ノンセンチャン子ども開発センター(CDC)、トンサンナン村図書室(HakArn34)*新規
サイヤブリ県CECにも一部の備品を支援。

大規模のCCC/CECについては、計画通りスタッフ人件費を段階的に減らしています。



(ご支援:三井住友銀行ボランティア基金、ミクプレニングMCC、(株)興伸、指定募金)

■活動ハンドブックの作成

活動の理念や役割を共有するため、昨年度『子ども文化センター活動ハンドブック』を制作しましたが、完成が大幅に遅れ、セミナー実施後に配布しました。再度セミナーを実施する計画でしたが、資金や人手不足の為、実施できませんでした。

■スタッフによる巡回

現地事務所のスタッフが全てのセンターを訪問し、活動状況を把握をする計画は、準備が遅れ、ボリカムサイCCCを訪問するに留まりました。

■専門家派遣

現場で長期に渡り青少年活動の人材を指導、育成する専門家派遣に向けた準備は、現地でのニーズ把握が充分でなく、進められませんでした。

■その他の活動

■事務所図書室活動

ラオス事務所1階の図書室では、新刊図書紹介などの工夫はしていますが、夜間や休日の開放は実施されていません。地域的な需要の把握、事務所図書室の意義について再考する必要があります。

■洪水被災地への支援

08年夏、豪雨が続き各地が水害に見舞われました。被害が大きかったボリカムサイ市や周辺地域に、食料品や日用雑貨、文房具などを手渡すと共に、本の読み聞かせなど心のケアを行いました。(ご支援:学習院女子大学ラオス研修参加者、仁茂田道彦、早川要清、Chanthaゲストハウス、在ラオ日本人の方々)

■広報

英語版リーフレットをリニューアルしました。英語版ホームページは準備中です。

当会の記事は、ラオスの英字新聞には4回、ラオス語新聞に計6回掲載されました。

■コンクール応募

日本の紙芝居や絵画コンクール3件への応募をおこないました。

- ・第4回手づくり紙芝居コンクール(富山市) 5作品
 - ・かながわビエンナーレ国際児童画展 20作品
 - ・第21回箕面紙芝居まつり 6作品 1作品入賞
- 今年はラオス事務所で「紙芝居セミナー」を実施した結果、受講者が箕面紙芝居まつりで「特別賞大阪国際児童文学館賞」を受賞しました。

国内事業

<計画>

- ◆ ホームページのアクセスが増加するよう、情報発信と頻繁な更新を図る。
- ◆ ニュースレターを年3回、英文年次報告書を発刊。
- ◆ 主催イベントを中心とし、ボランティアの主導的な参加を促進する。

<実績>

I. 広報

■ ホームページ

ホームページのお知らせやトピック、スタッフブログは頻繁な情報更新ができ、前年度比20%程度アクセス数が向上しました。ジャーナリストの入澤依里さんによるラオス取材レポートが、日経BPネットに掲載されました。

■ ニュースレター

「ラオスの子ども通信」は年3回、計5,500部発行しました。9月号は「絵本の旅」、12月号は「ラオスの活動世界に発信」、4月号は「ルアンパバンのお正月～私が子どもだったころ」を特集しました。ホームページとの棲み分けを明確にし、リニューアルの準備を進めています。年次報告書は11月に発刊しましたが、英語版は発刊できませんでした。

■ 広報活動の拡大

ノートパソコン及びプロジェクターを購入し、首都圏以外での支援者の拡大を目的とした広報活動の準備をすすめました。

(ご支援：日本国際協力システム「組織基盤強化事業」)

■ イベント

企業でのイベントを含め、主催のイベントを中心に参加する方向が定着してきました。今年度は下記主催イベントを実施しました。



サバイディーピーマイパーティー09

10/11 「IBBY朝日国際児童図書普及賞受賞を祝う会」

1/15-20 「ラオスの織物の世界」展

2/6 猿田駐在スタッフ帰国報告会

4/18 「サバイディーピーマイパーティー09」

6/25-29 「ラオス～暮らしに生きる織物～」展

「IBBY受賞を祝う会」には66名、「サバイディーピーマイパーティー09」には171名の方が参加してくださいました。また1月に神奈川県平塚市にて、6月に東京都港区にて、ラオス織物を紹介するイベントを実施しました。



ラオス～暮らしに生きる織物～ 於コトブキD.I.センター

II. ラオス語絵本プロジェクト

日本語の指定図書にラオス語の翻訳をつけてラオスに送る活動は、今年度は775冊を送ることができましたが、昨年度より10%減少しました。累計では5,027冊となりました。著作権の許諾の再確認作業は、残念ながら実施できませんでした。

III. 書き損じハガキ収集キャンペーン

年間で105件、書き損じハガキ3,473枚、未使用ハガキ988枚、未使用切手61,149円分、計266,834円分のご支援をいただきました。昨年度よりも12%程減少しました。

IV. ネットワーク活動

当会は、国際協力NGOセンター（JANIC）正会員、教育協力NGOネットワーク会員、紙芝居文化推進協議会会員になっています。昨年に続き、共同代表森透が教育協力NGOネットワーク副代表、事務局長野口朝夫がJANICの理事を務めました。また学習院女子大学にて開講されている「ボランティア実習」に、講師として事務局長を派遣しています。

NGOの社会的責任という観点からJANICが推進している「アカウントビリティ・セルフチェック2008」を受け、最初のマーク取得団体となりました。

組織運営

I. 全体運営

<計画>

- ◆日本人駐在スタッフ帰国後も、東京事務所との連携の水準を維持する。
- ◆会員の活動参加満足度を高くする
- ◆JICA草の根技術協力事業の終了後の事業展開の方向性を探る。
- ◆勉強会などを組み込み、運営会議を活性化する。

<実績>

■理事会

今年度は計10回開かれ、延べ50名が参加しました。3年にわたるJICA草の根技術協力事業の評価と今後の展開、経営状況の確認などがおこなわれました。また認定NPOとなるための準備を進めました。

■会員

IBBY朝日国際児童図書普及賞の受賞と積極的な広報活動により、活動会員65名、サポーター125名（うち団体6）と、前年度より増加しました。安定した支援者を増やすため、活動会員よりサポーターを増やす方針に変更しました。

■総会

9月20日、第6期 2008年度通常総会を、活動会員33名（うち10名書面評決、2名委任状）、賛助会員2名、活動協力者1名参加のもとに開催し、第7期事業報告、会計報告が承認されました。

■運営会議

運営会議は、計9回、延べ123人が参加しました。運営会議の役割を問い直し、活性化を図るため、「ラオスの布」、「私が小さかったころ〜ルアンパバンのお正月〜」、「NGOは何をめざすのか」、「ラオスの教科書+ラオス語文字カルタ作り」など、5つのテーマで勉強会を実施しました。

■プロジェクト評価

JICA草の根技術協力事業の終了時評価を08年7〜8月に。ラオス事務所スタッフの参加による中期計画に基づく各プロジェクトの評価を、年度を越えた09年7月に実施しました。

II. 東京事務所

<計画>

- ◆30%を目途に会員を増強し、会費収入を増やす。
- ◆インターン、ボランティアの役割分担を明確にし、専門性を高める。

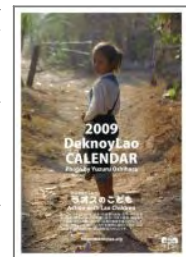
<実績>

■体制

上半期は常勤スタッフ1名、下半期は現地駐在員が帰国し、2名体制での運営となりました。充分でない事務局体制をボランティア、インターンが日常的に支える体制が安定的に構築され、多くの業務やイベントを遂行することが出来ました。

■資金調達

サポーターの増加や、納入促進活動などにより、一般寄附で117%、会費収入で131%、指定募金で124%増とすることができました。イベント収入は、「麻布十番納涼まつり」が予算額に達しませんでした。1月、6月にラオスの織物展を開催し、年間のイベント収入は、昨年度と同額水準を維持できました。写真家押原譲氏の作品を基にカレンダーを750部作成しました。



■ボランティア・インターン

登録者は53名です。提携している学習院女子大学インターンの他、ボランティアの役割分担が明確になり、安定した参加が大きな力になっています。インターン生による中学校での開発教育への参加など、新しい展開もありました。活動してくれたインターン、ボランティアは延べ199名でした。

III. ラオス事務所

<計画>

- ◆スタッフの運営能力、専門性を強化する。
- ◆資金調達額は、昨年度の10%増を目標とする。

<実績>

■体制

新体制発足後2年、活動は安定し、プロジェクト推進力、資金調達力など、事務所の総合的な運営能力は徐々に向上しています。12月に日本人駐在員が帰国後、一時は進捗状況の報告が滞りましたが改善しつつあります。人員に余裕がなく、プロジェクト進行に影響が出ており、人材補充を考える必要があります。

■資金調達

ラオス国内の民間企業や援助機関に対し資金調達活動を行い、フォード財団、オーストラリア大使館などから866,462円の支援を得ました。他NGO団体からの図書セットの購入依頼が増えています。

2008年度主催・参加イベント

■東京事務所（ゴシック体は主催イベント）

- 7/5 沖電気工業で「ラオス語絵本づくり」
- 8/22-24 麻布十番納涼祭り国際バザールに出店
- 9/26 富士ゼロックスの古本市で出店
- 10/4-5 グローバルフェスタに出展
- 10/11 IBBY朝日国際児童図書普及賞受賞を祝う会
- 10/28 祈り題目の日「NGO国際支援クラフトショップ」出店
- 11/8-9 OTAふれあいフェスタに出店
- 11/15 馬込文化センターまつりフリーマーケット出店
- 11/18-19 住商情報システムの古本市で「ラオス語絵本づくり」
- 1/15-20 平塚市民ぶらざにて「ラオスの織物の世界」開催
- 1/27 第7回ワールドカルチャーフェスティバルに参加
- 2/6 猿田駐在スタッフ帰国報告会
- 2/7 田園調布雙葉学園で絵本づくり体験授業
- 3/13 キッコーマン中四国支社・高砂支社で「ラオス語絵本づくり」
- 3/17 住友商事で「ラオス語絵本づくり」
- 3/22 JBBY社団法人日本国際児童図書評議会より顕彰
- 4/18 「サバイディーパーティ09」実施
- 5/21 リコーテクノシステムズにて「食べるボランティア」
- 6/16 町田市立真行寺中学校にて交流体験授業

- 6/25-29 「ラオス～暮らしに生きる織物～」展を開催
- 6/26 大田国際交流週間2009「ラオスの絵本カフェ」

■ラオス事務所（太字は主催イベント）

- 7/28 ラオス政府とMOU調印式実施
- 7/28-30 JICA草の根技術協力事業終了時評価会議実施
- 8/12-29 学習院女子大学長期研修インターン受入
- 8/20 参議院ODA調査団受入
- 8/27 九州大学スタディツアー訪問受入
- 9/8 JICA草の根技術協力事業モニタリング調査団受入
- 10/16・18 ODA評価～NGOとの合同評価調査団受入
- 11/10-12 富士ゼロックス端数倶楽部ツアー受入
- 11/27 Assist Children for Laos 訪問受入
- 12/29 JADDOスタディツアー受入
- 1/9-11 ラオス国際教育フェアに参加
- 2/5-6 ラオス政府と国際NGOの全国会議に出席
- 2/9・11 学習院女子大学スタディーツアー受入
- 4/24 Global Campaign for Educationイベントに参加
- 5/29 こどもの日イベントを実施
- 6/5, 10 JICafeにて出版図書展示・読書推進活動実施
- 6/7 事務所で読書会を実施

第7期2008年度 会計説明

科目	金額	
I 増加の部		
1 資産増加額		
正味財産増加額	10,372,684	
期末商品棚卸高	7,602,195	
当期収支差額		
増加額合計		17,974,879
II 減少の部		
1 資産減少額		
期首商品棚卸高	10,372,684	
固定資産除去損	15,478	
当期収支差額	1,135,908	
減少額合計		11,524,070
当期正味財産増加額		6,450,809
前期繰越正味財産額		15,563,571
期末正味財産合計額		22,014,380

科目	金額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金	537,370	
預金	10,423,146	
外貨	3,875,307	
図書	7,569,137	
商品	33,058	
貯蔵品	86,286	
仮払金	95,185	
流動資産合計		22,619,489
2 固定資産		
什器備品		
固定資産合計		0
資産合計		22,619,489
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金	3,959	
預り金	54,770	
仮受金	546,380	
流動負債合計		605,109
負債合計		605,109
III 正味財産の部		
正味財産		22,014,380
(うち当期正味財産増加額)		(6,450,809)
負債及び正味財産合計		22,619,489

第7期の収入合計額は、JICA草の根技術協力事業の終了に伴い、前期を大きく下回りました。自己資金調達のための積極的な取り組みにより「イベント収入」「販売収入」は、予算額を上回ることが出来ました。「会費・寄付金」「プロジェクト援助金」は、前期に比べると増加しましたが、民間一般助成金が予算を下回ったことなどにより、全体の予算額を達成できませんでした。

支出は、実施が遅れた出版事業が大きく予算額を下回りました。読書推進事業は、ほぼ予算通りの決算額です。子ども文化センター支援事業では、スタッフ巡回など自立支援活動が期を超えての実施となった為、予算額を下回りました。管理費では、東京事務所でのパソコン購入等により決算額が予算額を上回った部分などがありましたが、管理

費の合計額ではほぼ予算通りの決算となりました。繰越金のうち約500万円はプロジェクトが指定され、期を超えての実施が予定されています。決算報告の詳細は、ホームページにて、ご覧いただけます。

監査報告書

2009年9月2日

特定非営利活動法人 ラオスのこども

代表 森 透 殿
チャントソーン インタヴォン 殿

特定非営利活動法人 ラオスのこども

監事 脇田 康司

監事 野口 賢一

私は、特定非営利活動法人 ラオスのこども 第7期2008年7月1日から2009年6月30日までの会計年度について、事業報告と会計報告の監査を行った結果、適正で妥当であることを認めます。

以上

第7期 2008年度 会計報告 2008年7月1日～2009年6月30日 第8期 2009年度 収支予算 2009年7月1日～2010年6月30日

I 収入の部

(単位:円)

科目	2007年度決算	2008年度予算	2008年度決算	2009年度予算
会費・寄付金 小計	5,698,573	7,750,000	6,996,527	7,760,000
一般寄付	3,451,073	4,800,000	4,154,246	4,400,000
活動会費	723,500	1,200,000	950,000	1,250,000
指定募金	1,524,000	1,750,000	1,892,281	2,110,000
プロジェクト援助金 小計	26,136,440	18,850,000	15,045,023	22,620,690
民間一般助成金	7,073,953	11,250,000	8,148,073	6,600,000
政府系補助金・助成金	18,156,777	6,600,000	6,124,225	15,020,690
現地受取補助金・助成金	905,710	1,000,000	772,725	1,000,000
その他 小計	6,778,916	6,400,000	7,083,833	6,400,000
特別指定	434,839		131,140	
イベント収入	4,631,771	500,000	1,459,910	1,300,000
販売収入		5,600,000	4,135,382	4,800,000
雑収入	1,712,306	300,000	1,357,401	300,000
当期収入合計	38,613,929	33,000,000	29,125,383	36,780,690
前期繰越金	16,593,059	15,548,093	15,548,093	14,412,185
□ 収入合計	55,206,988	48,548,093	44,673,476	51,192,875

II 支出の部

科目	2007年度決算	2008年度予算	2008年度決算	2009年度予算
事業費 小計	32,272,145	27,005,340	23,673,907	29,945,340
出版事業費	3,604,585	3,954,500	1,470,357	3,175,900
函書出版	3,088,549	2,904,000	838,854	2,069,800
紙芝居出版	506,035	830,500	96,218	
コンクール				981,100
統括管理	10,001	220,000	535,285	125,000
読書推進事業費	22,347,202	16,818,450	16,681,541	17,657,200
草の根技術協力事業	16,959,654	6,999,630	6,741,895	11,567,400
学校図書室・教員養成校	3,897,754	3,586,000	3,879,556	3,058,800
統括管理	1,489,794	6,232,820	6,060,090	3,031,000
子ども文化センター支援事業費	3,053,205	2,870,890	1,841,518	2,581,000
各センター運営費	1,845,741	1,538,570	1,520,249	1,490,000
自立支援	935,373	935,000	90,367	650,000
統括管理	272,091	397,320	230,902	441,000
特別実施事業費	3,267,153	3,361,500	3,680,491	6,531,240
その他現地事業費	727,429	896,500	1,045,980	1,155,000
国内事業費	2,539,724	2,465,000	2,634,511	5,376,240
管理費 小計	7,386,750	6,603,740	6,587,384	6,635,000
東京事務所経費	6,367,129	5,478,000	5,653,502	5,690,000
家賃・水道光熱費	540,000	540,000	540,000	540,000
通信費・運搬費	150,353	150,000	210,236	220,000
事務費・記録費	299,633	348,000	146,258	150,000
広報費	810,106	900,000	923,986	950,000
人件費・交通費	4,101,869	3,120,000	3,227,980	3,330,000
出張費				
備品消耗品費	74,530	100,000	205,547	100,000
諸会費・会議費	142,090	100,000	113,000	100,000
雑費	248,548	220,000	286,495	300,000
ラオス事務所経費	1,019,621	1,125,740	933,882	945,000
家賃・水道光熱費	187,767	158,400	170,676	180,000
通信費・広報費	1,330	24,200	42,595	51,000
事務費・記録費	20,106	26,400	41,371	60,000
人件費・交通費	581,133	718,740	558,203	449,000
備品消耗品費	101,416	66,000	31,386	60,000
諸会費・雑費	127,869	132,000	89,651	145,000
予備費		300,000		200,000
□ 当期支出合計	39,658,895	33,909,080	30,261,291	36,780,340
□ 当期収支差額	-1,044,966	-909,080	-1,135,908	350
次期繰越収支差額	15,548,093	14,639,013	14,412,185	14,412,535

全体方針

- ◆現場力を強化し、プロジェクトを遂行
- ◆現行中期計画の評価と次期中期計画の策定

第4次中期計画の最終年度として、本年度も中央よりも現場をより丁寧に＜満遍なくでなく地域ポイントを明確に＞＜子どもの意見を反映し、担い手として育てる＞という基本方針にのっとり、「現場力」の強化を目指します。

この数年、ラオスでは本の出版が増加し、「本がないから出版する」とは言えない状況がある一方、まだ本が手元がない学校は半数近くにのぼると思われま。また本に接するようになった子どもたちも、深く物語に入り込むというより、字面を追うことで終わっている傾向も見られます。読書推進活動を本来的に担うべき行政組織は、人材、資金の両面から、まだ自主的な動きにまで発展していません。このような状況で、NGOとしての活動の意義、使命を常に確認しつつ、次期第5次中期計画の策定をおこないます。

組織運営においては、多くの方々に開かれたNGOとして、国際協力の意味を伝えつつ協働していきます。

1. プロジェクト運営

主な活動

- ◆図書・紙芝居8作品をを出版
- ◆図書がある学校へのフォローアップに重点
- ◆学校図書室（ハックアーン）を10校に開設
- ◆11ヶ所のCCCを支援、1～2ヶ所を新たに支援
- ◆CCCを巡回し、常に活動状況を把握する

■出版

出版図書の対象、目的など出版方針を明確化し、「当会でなければ出版できない図書」の視点から、出版する図書を選択していきます。「売れる本」作りにも着手します。またコンクールやワークショップ、読書推進ニュースレターを活用して新人作家や編集者の育成をおこないます。多様な少数民族向けの出版にも力を入れます。

- ・子ども向け図書・紙芝居を8作品（各2,000～5,000冊）出版。国語、算数のドリル作りに着手。
- ・読書推進ニュースレターを年3回発行します。
- ・「コンクール」を実施し、優秀作品を出版。
- ・救急法マニュアルの出版とセミナーを実施。
- ・イベントでの販売や委託販売数を増加させ、本の販売経路の拡大を図る。

■読書推進

現地事務所スタッフとインターンで構成される読書推進活動チームが直接学校を訪問して、読書推進セミナーを実施し、現場への働きかけを強める「出前活動」を実施します。

- ・図書室がある小学校73校を対象に図書活用セミナーを開催。うち46校に対して、指導員チームが各校を回り巡回指導を実施。
- ・学校図書室（ハックアーン）を10校にて新規開設。3年以内に開設した44校に図書を補充。
- ・JICA草の根技術協力事業の配付対象校のうち、40校に図書の補充とフォローアップ巡回指導を実施。また、読書推進センターの整備を進める。
- ・図書を新規配付する学校15校で出前活動を実施。
- ・当会出版の図書セットを80校程度に無償提供。
- ・国立図書館、教育省、NGOの読書推進活動関係者間で会議を開催し、連携と各々の役割を明確にする。
- ・「読む」ことに加えて、「書く」ことも含めたラオス語指導者育成事業を、教員養成校8校にて実施。
- ・「子ども参加」を促進すべく、ラオス事務所と調整をおこなう。

■子ども文化センター

持続可能な運営がおこなわれるよう理念の共有を深め、スタッフによる巡回指導を通じ、より質の高い活動ができるように支援をおこないます。また今後の自立と発展を意識して、予算書、報告書の水準を上げ、それぞれの施設の全体予算が明確になるように指導し、チェックします。

- ・11館の運営支援を継続。大規模CCC/CECは、スタッフ人件費を削減した支援へと切り替える。
- ・新規小規模CCC/CECの支援を1～2カ所増加。
- ・担当スタッフが全てのセンターを巡回し、各センターの活動状況を把握。また、各センターからの報告書の質を高めるよう指導をおこなう。
- ・長期滞在し青少年活動の人材を指導、育成する専門家派遣の準備をおこなう。

■事務所図書室の活動

事務所1階の図書室の有効活用を再検討します。事務所を図書室運営にふさわしい場所に移転すべく、検討をすすめます。

会のスタッフが、図書に接する機会が少ない地域に出かけていく出張活動に力を注ぎます。

II. 国内事業

■広報

ホームページは、アクセスが増加するように、豊かな情報発信と頻繁な更新を心がけ、英語とラオス語ページを完成させます。ニュースレターは年3回の発行を継続し、英語版年次報告書の発行を進めます。これまで働きかけが不十分な、首都圏以外での広報活動を積極的におこないます。

■インターン・ボランティア

研修の機会を設けてインターン、ボランティアの専門性を高め、活動への参加度向上を進めます。

■イベント

主催イベントを中心として、参加目的を明確にし、ボランティアの主導的な参加を促進します。

■ラオス語絵本プロジェクト

著作権の再確認作業を進めます。様々な人々が参加できるこの活動を継続的に推進します。

■スタディツアーの開催

ラオス国営航空など航空会社、旅行会社の協力を得て、スタディツアーを複数回開催します。

III. 組織運営

◆活動会員90名、サポーター160名をめざす

◆認定NPO法人資格取得の申請準備

■理事会

審議事項を明確化します。また共同代表と事務局長による会議を開き、意思決定を迅速化します。今期の理事監事は、以下の11名です。

理事 チャンタソン インタヴォン（共同代表）
森 透（共同代表） 野口朝夫（事務局長）
近藤知子 猿田由貴江 塩谷光 田島伸二
長野ヒデ子 やべみつのり

監事 矢崎芽生 脇田康司

■会員

会員の皆様の満足度を高めつつ、サポーターを中心に会員を増やす活動をおこない、活動会員90名、サポーター160名を目指します。

■運営会議

会議の役割を再検討し、外部に開かれた勉強会を定期的に開催することで、活性化を図ります。

■計画評価・推進

ラオス事務所スタッフを東京に招き、中期計画の評価と次期中期計画の準備会議を開催します。さらにラオスでも次期計画策定会議を開きます。

【東京事務所】

■体制

常勤専従スタッフ2名、常勤非専従事務局長1名で運営を担当します。スタッフ研修の機会を積極的に設けることで、能力向上を図ります。物販事業は、アルバイトを雇用し、効率よい展開を図ります。

■資金調達

認定NPO申請の準備をすすめます。ランチプログラムや、「ラオス文字カードづくり」など参加型イベントメニューを改善し、企業との連携促進を図ります。また、開発教育を中心としたプログラムを確立することで、団体のミッションをより明確に伝えられるよう工夫をおこないます。



【ラオス事務所】

■体制

現地代表1名、スタッフ6名程度、日本人駐在1名の体制で運営します。研修を実施し、スタッフのプロジェクト運営能力と専門性を高めます。

■資金調達

昨年度の10%増額を目標とし、ラオス国内の外国政府機関、NGO、企業などに積極的に働きかけます。事務所内での図書販売を積極的に進めます。

■広報

ラオス語、英語の広報資料の内容を充実させ、積極的な広報を心がけます。日本に向けて、ラオスの教育や子どもの状況に関わる情報発信を増やします。

■イベント・対外活動

ブックフェスティバルなどの主催イベントを継続開催し、ラオス社会での存在感を強めるようにします。教育に関わる団体との協力関係を築いてゆきます。

